



予防的胃固定術について

■ 病気の概要

GDV（胃拡張胃捻転症候群）は大型犬に発症する緊急疾患で、発症すると命に関わります。予防的胃固定術は、GDVを発症する前に胃を腹壁に固定しておくことで、発症リスクを大幅に下げる予防手術です。腹腔鏡による低侵襲手術で行います。手術の詳細については手術説明書をご参照ください。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・大型犬・深胸犬種（グレート・デーン、ジャーマン・シェパード、ラブラドル、ゴールデンなど）
- ・家族（兄弟・親）にGDVを発症したことがある子
- ・食後に腹部が膨らみやすい子

■ どんな検査をするの？

- ・術前の身体検査・血液検査
- ・胸部・腹部レントゲン（全身状態の確認）

■ 治療方法

内科治療

- ・術前の全身状態管理
- ・術後の疼痛管理（痛みを和らげる治療）

外科治療

- ・腹腔鏡下予防的胃固定術（3カ所の小切開・5～7針で固定）
- ・原則当日退院・7～10日後に抜糸

■ ご家庭で気をつけること

- ・術後7～10日は安静（散歩は短時間のリードウォークのみ）
- ・7～10日後に抜糸のために来院
- ・術後は通常の食事・生活に戻れます

■ よくある質問

Q. いつ受けるのがいいですか？

A. 1～2歳頃、または避妊・去勢手術と同時施行が理想です。年齢を問わず対応します。

Q. どんな犬種に勧めますか？

A. グレート・デーン・ジャーマン・シェパード・ラブラドル・ゴールデンなど大型・深胸犬種にお勧めします。

Q. GDVになったことがなくても必要ですか？

A. GDVの緊急手術に比べて費用・リスクともに低いため、発症しやすい犬種では予防手術をお勧めしています。

■ なつ動物病院での診療について

腹腔鏡による予防的胃固定術を行っています。原則当日退院で対応しています。「うちの子はリスクがあるかな？」と思ったらご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください